

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人 優和

経営者への活きた言葉

TEL 0 3 - 3 4 5 5 - 6 6 6 6
FAX 0 3 - 3 4 5 5 - 7 7 7 7

経営者への活きた言葉

未来投資を始める企業が増えてきた 富山 和彦（経営共創基盤グループ会長）

1. 日経平均株価は3万円超えの株価水準は、まだまだ上がってもおかしくない。1つは、もともとPBR1倍割れの会社が東証がこの問題を言及したことで、さすがに反応する経営者が目立ってきた。もう1つは、日本の大企業は儲からない事業をやりすぎていた。儲からない事業を抱え込んでいるから未来投資をできない。ところが、ソニーグループや日立製作所のように、事業ポートフォリオを変えてしっかり未来投資を始める企業が増えてきた。
2. 東京エレクトロンは非常に高収益企業だ。あのぐらい稼がないと、イノベーション投資を続けられない。彼らはずっと投資をし続けたからこそ成長できた。経済界の主流のように「利益が上がらないのは長期的視点で投資をしているから」「日本型の経営が大切」等の言い訳をしていたら生き残れない。
3. 観光や外食などのローカル産業もこれから賃金がどんどん上がっていく。評価されない中間管理職として居残るよりも、サービス業で生き生きと働いたほうが幸せ。そういう価値観の転換も必要になる。グローバルで戦える企業はそれほど多くない。

(参考:「週刊東洋経済」2023年6月17日号)

経営者のための理念・哲学

父は敬の対象、母は愛の対象（安岡正篤）

1. 安岡正篤は『治学』では、学問を通して人間を磨いた代表的な先人や座右の書とすべき名著名文などについて語られております。また、「藤樹・蕃山両先生と今後の学問」の章では中江藤樹・熊沢蕃山という二人の儒者についてその真摯な学問への姿勢を高く評価されています。
2. 藤樹先生の「愛と敬」についての考え方です。「藤樹先生は又人間というものを反省考察されて、人間の人間たる所以、人心の最も大事な要素・作用は愛と敬にあると言われておる。これは今日われわれが学問をし、実践してゆく上に於いて、やはり大事な根本原理であります。これを受けて安岡先生は、「父は敬の対称・母は愛の対象である」と述べられています。

(参考:「致知」2023年7月号)

人事・労務について

ベトナムの「日本離れ」

1. 日本にいる技能実習生の半数以上を占め、日本の労働力不足の最大の支えであるベトナム人。その間で今、「日本離れ」の動きが出始めている。経済成長でベトナム国内での待遇改善が進む一方、本国通貨ドンに対して円安が進み、日本との格差が急速に縮んでいる。日本まで出稼ぎに行くうまみはもう失われている。
2. ベトナム人実習生の間で、SNSで「きつい仕事」との印象が広まった建設業では特に働き手が集まらない。新たなライバルとして出現したのがオーストラリアだ。同国政府は22年3月にベトナム政府との間で、労働者の派遣・受け入れに関する覚書を結び、農業分野での労働力の受け入れを決めた。日本の若者が出稼ぎに行くほど賃金が高いオーストラリアだ。日本はさらに劣勢に立たされる。

(参考:「日経ビジネス」2023年6月5日号)

古典に学ぶ

真理とは何か

1. では、その真理とは、具体的に何を指すのでしょうか。たとえば、同じ地域に住む人にとって、その日の天気は誰にとっても一緒。つまり、「真理」であり、現実です。
2. しかし、その青空を仰ぎ「なんて鮮やかな色なのだろう」と感動する人もいれば、うつむいて過ごす人もいます。与えられた現実と同じなのに、それをどのように受け取るかで、人生を豊かにする材料にできるかどうかが決まるのです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」;河出書房新社)